

映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2016」取材のご案内

映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2016」を平成28年11月21日（月）から11月26日（土）に開催します。

会期中には以下のとおり公開プログラムを実施します。是非ともご来場、ご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■開催趣旨

映画分野における人材育成事業「タレンツ・トーキョー」は、映画監督やプロデューサーを目指すアジアの参加者（以下 タレンツ）に、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供するものです。映画監督、プロデューサー、セールスの各部門において世界で活躍するプロフェッショナルを講師陣として迎え、講義やプレゼンテーションを通じて参加者の育成を図ります。また、タレンツ同士の交流や講師とタレンツとの交流、さらには、同時開催される映画祭「東京フィルメックス」に集まる映画監督たちとタレンツとの交流により、タレンツが国際的なネットワークを新たに築くことを目指しています。

■開催概要

名称：タレンツ・トーキョー2016

期日：平成28年11月21日（月）から11月26日（土）まで

※「第17回東京フィルメックス」期間中の6日間

会場：有楽町朝日ホール ※詳しくは、別紙2をご参照ください。

対象者：映画監督、プロデューサーを目指す若者15名

主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、
国際交流基金アジアセンター、タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルメックス）

提携：ベルリナーレ・タレンツ（ベルリン国際映画祭）

協力：東京ドイツ文化センター



■公開プログラム

○11月24日（木）13:00-14:00 公開講義「フィルム・ファンドの役割」

○11月24日（木）14:30-17:30 公開プレゼンテーション

○11月26日（土）16:30-17:00 授賞式及び閉会式

※公開プログラムの詳細については別紙1をご参照ください。



※タレンツ・トーキョー2016のメイン講師、ゲスト講師及び参加者については、別紙3をご参照ください。

<タレンツ・トーキョー2016に関する問い合わせ先>

タレンツ・トーキョー実行委員会

TEL：03-3560-6393 FAX：03-3586-0201

Email: talents@talents-tokyo.jp ホームページ: <http://talents-tokyo.jp/>

「東京都長期ビジョン」事業

本件は、「東京都長期ビジョン」における、以下の都市戦略・政策指針に係る事業です。

都市戦略3 日本人のこころと東京の魅力の発信

政策指針8 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

<問い合わせ先>

生活文化局文化振興部文化事業課 藤生・植田 電話 03-5320-7658 内線 29-450

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 森（隆）・圓城寺 電話 03-6256-8432

【タレンツ・トーキョー2016 公開プログラム取材のご案内】

1 公開プログラム概要

(1) 11月24日(木) オープン・キャンパスデー【日本語同時通訳あり】

13:00～14:00 公開講義「フィルム・ファンドの役割」

ゲスト講師：カトリエル・シホリ

14:30～17:30 公開プレゼンテーション

参加者が自身の企画をプロデューサーや、配給会社に対して、プレゼンテーションを行います。

※ 著作権保護のため、動画撮影はご遠慮ください。

(2) 11月26日(土) 授賞式及び閉会式【日本語逐次通訳あり】

16:30～17:00 授賞式及び閉会式

公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画1点を表彰

2 会場

有楽町朝日ホール・スクエアB

〒100-0006

東京都千代田区有楽町二丁目5番1号 有楽町マリオン11階

アクセス：JR有楽町駅 徒歩1～2分(中央口、銀座口)

東京メトロ(日比谷線、丸の内線、銀座線)銀座駅 徒歩1～2分(C4出口)

東京メトロ(有楽町線)有楽町駅 徒歩1～2分(D7出口)

※詳しくは、別紙2をご参照ください。

3 取材申込方法

取材を希望される場合は、**平成28年11月17日(木)正午**までに、別添「取材申込票」によりFAXにて生活文化局文化振興部(FAX:03-5388-1327)へお申し込みください。

4 取材受付

(1) 受付時間

各プログラムとも開始予定時刻の15分前から受付を開始いたしますので、お申込みプログラム開始の5分前までに受付を済ませてください。お申込みをいただいても時間までにご来場されない場合、お席の準備ができないことがありますので、予めご了承ください。

(2) 受付場所等

会場入口のプレス受付にて、取材申込票もしくはお名刺をご提示の上、社名・人数をお知らせください。「プレスパス」をお渡しいたします。

5 取材ポイント

プレス席をご用意しておりますので、取材はプレス席よりお願いいたします。指定場所以外での取材はご遠慮ください。

6 撮影について

- (1) 本事業にて撮影した動画・写真を、番組制作等、報道以外でご使用の場合は、必ず事前にご相談ください。
- (2) **11月24日(木) 14:30~17:30「公開プレゼンテーション」については、動画撮影は禁止とさせていただきます。**また、発表中のスクリーン映像については、動画撮影に加えて写真撮影もご遠慮ください。ご迷惑をおかけしますが、著作権保護及び円滑なプログラム進行のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

7 取材における留意事項

- (1) 取材にあたっては、自社腕章及び受付でお渡しする「プレスパス」を着用してください。
- (2) 会場の都合上、プレス席、プレスエリアが手狭となっております。各社譲り合いのご協力をお願いいたします。
- (3) プログラム実施中の出入りは固くお断りいたします。また、会場内では、係員の指示に従ってください。
- (4) 取材に必要な電源は、各社にてご用意ください。
- (5) 当日、講師・参加者へ個別取材をご希望される場合は、取材受付時にお申し出ください。

【タレンツ・トーキョー2016 会場案内】



**有楽町朝日ホール
スクエア
ギャラリー**

(マリオン11階) (Tel.03-3284-0131)
(Fax.03-3213-4386)

●有楽町朝日ホール・スクエア B

〒100-0006

東京都千代田区有楽町二丁目5番1号

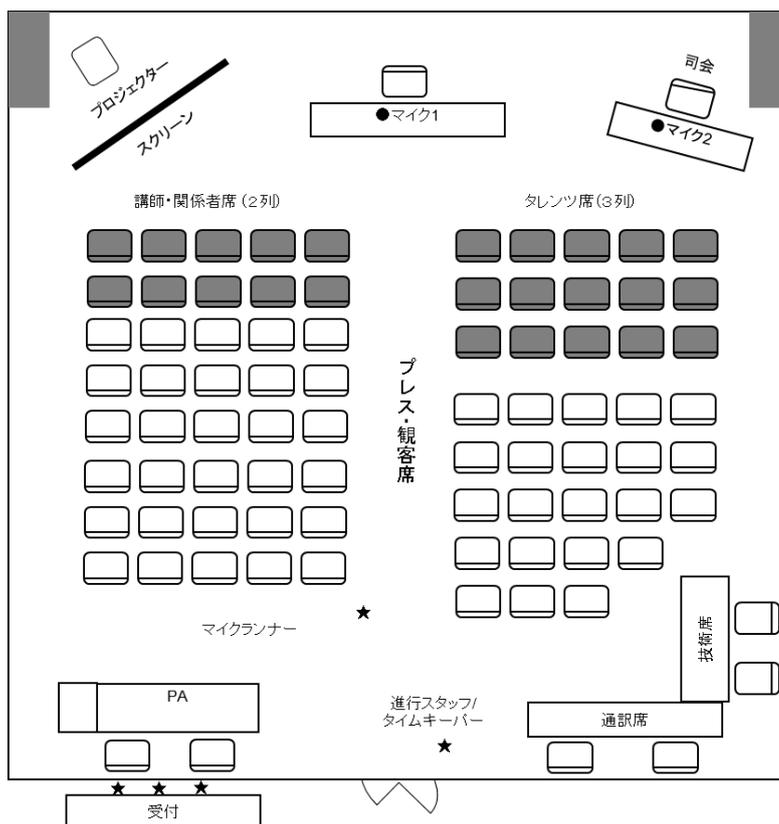
有楽町マリオン11階

アクセス

- ・JR線有楽町駅
徒歩1～2分(中央口、銀座口)
- ・東京メトロ(日比谷線、丸の内線、銀座線)銀座駅
徒歩1～2分(C4出口)
- ・東京メトロ(有楽町線)有楽町駅
徒歩1～2分(D7出口)

●有楽町朝日ホール・スクエアB内
見取り図

(※ 有楽町マリオン 11階)



【タレンツ・トーキョー2016 メイン講師及び参加者】

1 メイン講師

・ モフセン・マフマルバフ（映画監督）

1957年、テヘラン生まれ。民主主義のために闘い、17歳で投獄され、5年近くを牢獄で過ごす。釈放後も文学や映画活動を通し民主主義と平等を追究する。30もの著作があり、30本の長編・短編映画およびドキュメンタリー映画を世界10ヶ国で監督した。カンヌ、ヴェネチア、ロカルノなどの映画祭で50を超える賞を受賞。優れた業績に対し、映画と文学における2つの名誉博士号が授与された。長年にわたり、「世界の批評家と専門家が選ぶ映画史に残る100本の映画」に何度も選ばれている。映画製作や作家活動の他に、イランやアフガニスタンにおける人権活動家としても活動している。また、これまでにいくつもの映画祭の審査委員長も務めている。これまでの東京フィルムフェクスでは『カンダハール』（2001年）、『セックスと哲学』（2005年）、『スクリーム・オブ・アント』（2006年）、『庭師』（2012年）、『微笑み絶やさず』（2013年）が上映され、『独裁者と小さな孫』（2014年）は観客賞を受賞し、日本公開もされた。

・ イザベル・グラシャン（プロデューサー）

フランスのテレビ局、[Canal+]でジャーナリストとしてキャリアをスタートさせた。1998年から2003年まで、在中国フランス大使館で視聴覚担当を務める。2004年にエグゼクティブ・プロデューサーとして、中国映画『青紅～Shanghai Dreams』（ワン・シャオシュアイ監督/2005年/カンヌ国際映画祭審査員賞受賞）を製作した。それ以降、アソシエイトプロデューサーとして、『ロスト・イン・北京』（リー・ユー監督/2007年/ベルリン映画祭コンペティション）、『南京!南京!』（ルー・チュアン監督/2009年/サンセバスチャン国際映画祭最優秀作品賞）、共同プロデューサーとして『パリ、ただよう花』（ロウ・イエ監督/2011年/トロント国際映画祭）、プロデューサーとして『我らが愛にゆれる時』（ワン・シャオシュアイ監督/2008年/ベルリン国際映画祭銀熊賞脚本賞）、『三姉妹～雲南の子』（2012年/ヴェネチア映画祭オリゾンティ部門最優秀作品賞）などのワン・ビン監督のドキュメンタリー、『重慶ブルース』（ワン・シャオシュアイ監督/2010年/カンヌ国際映画祭コンペティション）、『僕は11歳』（ワン・シャオシュアイ監督/2011年/フランスと中国による初の公式共同制作）等の作品製作に携わる。現在は、キット・ホイ、ロウ・イエ、ワン・シャオシュアイ他、新世代の中国人監督達と新しいプロジェクトを企画中。2011年にフランスと中国との共同製作における功績に対して、フランス文化省から芸術文化勲章シュバリエを授与される。2012年1月より、ユニフランス中国支局長を務める。

・ アレクサンドラ・アビコバ（「m-appeal」社セールス、配給担当）

2010年ベルリンのフンボルト大学を卒業（専攻は美術史、社会学、アジア学）、2014年、同大学大学院修了（アジア学専攻）。2010年からはm-appeal社のセールス、配給担

当を務める。ベルリンを拠点としたm-appeal社は若手のワールド・セールス会社であり、東ヨーロッパ、南ヨーロッパ、ドイツ、アジア、ラテンアメリカなど様々な国から新鮮で質の高い映画を集めている。m-appeal社を通して最近手掛けた作品には、“*WITHOUT NAME*” (Lorcan Finnegan監督/2016年/トロント国際映画祭)、“*4 DAYS IN FRANCE*” (Jerome Reybaud監督/2016年/ヴェネチア国際映画祭批評家週間)、“*LIPSTICK UNDER MY BURKHA*” (Alankrita Shrivastava監督/2016年)、“*BLANKA*” (長谷井宏紀監督/2015年/テルアビブ国際子ども映画祭)、“*SINGING IN GRAVEYARDS*” (Bradley Liew監督/2016年/ヴェネチア国際映画祭批評家週間) 等がある。

2 ゲスト講師

- ・ サンジーワ・プシュパクマーラ (映画監督)

1977年、東部スリランカに生まれる。フリーランス記者として働いた後、スリジャヤワルダナプラ大学で芸術を、ケラニア大学でマスコミ論を、スリランカ国立映画公社で映画を学ぶ。2007年、韓国政府のスカラシップを得て韓国に留学。同年には短編映画“*Touch*”、“*Wings to Fly*”を監督。2009年にはプサン映画祭のアジアン・フィルム・アカデミーに参加し、短編映画“*An Encounter in the Wood*”の美術を担当した。2011年、初の長編映画『フライング・フィッシュ』を監督。現在は韓国の中央大学校で映画を専攻。映画についての著作も発表している。

- ・ リティ・パン (映画監督)

1964年、プノンペン生まれ。1975年からクメール・ルージュのリハビリテーション・キャンプで苦しみ、1979年にタイに逃亡、1年後パリにたどり着く。その後、パリの高等映画学院(IDHEC)を卒業。1989年に監督した長編ドキュメンタリー『Site II』がアミン映画祭でグランプリを受賞。1994年に発表した初の劇映画『米に生きる人々』がカンヌ映画祭コンペティションに、続く劇映画第2作『戦争の後の美しい夕べ』(1998年)もカンヌ映画祭「ある視点」部門で上映された。ドキュメンタリー作品『さすらう者たちの地』(2000年)、『S21:クメール・ルージュの虐殺者たち』(2002年)は、いずれも山形ドキュメンタリー映画祭を始め、多くの映画祭で受賞している。その他の作品に、『焼けた劇場の芸術家たち』(2005年)、『飼育』(2011年)などがある。なお、『消えた画 クメール・ルージュの真実』(2014年)も日本公開されています。

- ・ カトリエル・シホリ (プロデューサー) ※公開講義講師

「イスラエル・フィルム・ファンド」のディレクターを17年間務め、『戦場でワルツを』や『レバノン』など、約230もの映画に資金を拠出してきた。世界の映画界の中でもひととき名高く、イスラエルの映画作家たちは表現の自由の守護者として彼を認めている。NYUの映画学科を出て、1973年にイスラエルへ戻り、1999年から「イスラエル・フィルム・ファンド」のエグゼクティブ・プロデューサーを務めている。Belfilmsというプロダクション会社を設立し、オスカーにノミネートされた“*BEYOND THE WALLS*”や、テレビドラマ、ドキュメンタリー等、150を超える作品をプロデュースした。プロデュースした主要作品には、『フリー・ゾーン ～明日が見える場所～』(2005年)、“*Deshaim S'Gulim*” (1998年)、“*L'enfant d'Israel*” (1997年)、“*Ha-Shich'zoor*” (1994年) 等がある。

- ・ カトリーヌ・デュサール（「CDP」社プロデューサー、マネージャー）
カトリーヌ・ドゥサール・プロダクション（CDP）代表。主なプロデュース作品は次の通り。
『エグジール』、『*La France est notre Patrie*』、『消えた画』、『*Duch, Master of the Forges of Hell*』、『飼育』、『*The Sea Wall*』、『紙は余燼を包めない』、『焼けた劇場の芸術家たち』、『*Que la barque se brise, que la jonque s'entrouvre*』、『ボファナ、カンボジアの悲劇』（以上、リティ・パン監督）、『*Goltzius*』（ピーター・グリーンナウェイ監督）、『カンゾー先生』、『赤い橋の下のぬるい水』（以上、今村昌平監督）、『黒い雌鶏』（ミン・バハドゥール・バム監督）など。

3 参加者 （15名）

【監督】

NEANG Kavich（カンボジア）
CAI Jie（中国）
MO Jinjin（中国）
Timothy YEUNG（香港／カナダ）
Shalahuddin SIREGAR（インドネシア）
木下雄介（日本）
中村真夕（日本）
Sein Lyan Tun（ミャンマー）
Martika Ramirez ESCOBAR（フィリピン）
Charena Theresa Lopez ESCALA（フィリピン）
Tongpong CHANTARANGKUL（タイ）
LE Binh Giang（ベトナム）
DOAN Tuan Duc（ベトナム）

【プロデューサー】

LI Yang（中国）
Gita Fara PRADITYA（インドネシア）

※氏名（国籍・地域）

※タレント名は国籍・地域のアルファベット順で表示しています。

「タレンツ・トーキョー2016」 取材申込票

取材申込期限 11月17日(木) 正午 まで

FAX: 03-5388-1327

あて先: 生活文化局文化振興部文化事業課 担当: 富田 行

御社名 _____

取材代表者氏名 _____

連絡先(携帯電話) _____

人 数 _____ 人

(ペン ・ ムービー ・ スチール) (該当に○)

※ 取材を希望するプログラムの□に✓をつけてください。

11月24日(木) 13:00~14:00 「フィルム・ファンドの役割について」

11月24日(木) 14:30~17:30 「公開プレゼンテーション」

11月26日(土) 16:30~17:00 授賞式及び閉会式

※ご来場の際は、本票もしくはお名刺を受付でご提示ください。

※ご記入いただいた個人情報は、出欠の確認以外に使用することはありません。

※当日は、お申込みプログラムの開始予定時刻5分前までに受付を済ませてください。

お申込みをいただいても時間までにご来場されない場合、お席の準備ができないことがありますので、予めご了承ください。